

彦根城と熊本城 -慶長の築城ラッシュ-

熊本城調査研究センター 下高大輔

■本日の話の流れ

1 はあ〜っ、、、彦根城って??

	【近江 彦根城】	【肥後 熊本城】
旧 城・古 城 :	佐和山城	隈本城
築 城 時 期 :	慶長9年(1604)	慶長4年(1599)
築 城 大 名 :	徳川幕府(井伊直継)	加藤清正
江 戸 時 代 城 主 :	井伊氏	加藤氏・細川氏
文化財保護法指定 :	特別史跡・国宝・重要文化財 (48.9ha)	特別史跡・重要文化財 (51.2ha)

元和元年(1615)からは井伊直孝単独

2 慶長の築城ラッシュって、なに??

慶長(1596~1615) 20年間

時代背景：慶長大地震／朝鮮撤退後の豊臣政権内の亀裂／関ヶ原合戦後の大名の大規模な配置換え
 豊臣政権としては太閤豊臣秀吉の死去と内大臣徳川家康の台頭
 徳川政権が樹立するもまだ城郭統制がない

その結果⇒居城の大改修・移転や国境線に支城を複数築城

ちなみに現在の都道府県庁所在地に存在する城跡はほとんどこの時期に出現

3 慶長の城郭石垣いろいろ

豊臣政権の居城「伏見・名護屋」／朝鮮半島南岸に築城された「倭城」／大名の居城／国境防備の支城

4 熊本城(新城)の築城期の姿

城郭石垣観察の視点：これまでは隅角部と勾配 ⇒ 築石部に目を向ける

技術の変遷・発展のみ 発注者(権力者・大名など)の嗜好・目的

熊本城(新城)石垣の位置付け ⇒ 豊臣(秀吉)政権の嗜好性を継承しつつ、構築技術の最先端

引用・参考文献 ※ゴシック体は比較的手に入りやすい文献です。

富田紘一 2008『熊本城 歴史と魅力』熊本城顕彰会

乗岡実 2009「岡山城跡の石垣」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第1号 岡山市教育委員会

彦根市 2011『新修彦根市史』第10巻 景観編

下高大輔 2014「彦根城—中世と近世が融合した縄張り—」『週刊 日本の城』81 デアゴスティーニ

下高大輔 2015「彦根城」『近畿の名城を歩く—滋賀・京都・奈良編—』吉川弘文館

彦根市教育委員会 2015『特別史跡彦根城跡石垣保存修理工事報告書』2

下高大輔 2015「彦根城石垣普請工程解明の基礎的作業」『織豊城郭』第15号 織豊期城郭研究会

彦根市教育委員会 2017『佐和山御普請、彦根御城廻御修復—発掘・解体調査からみえてきたもの—』(企画展示図録)

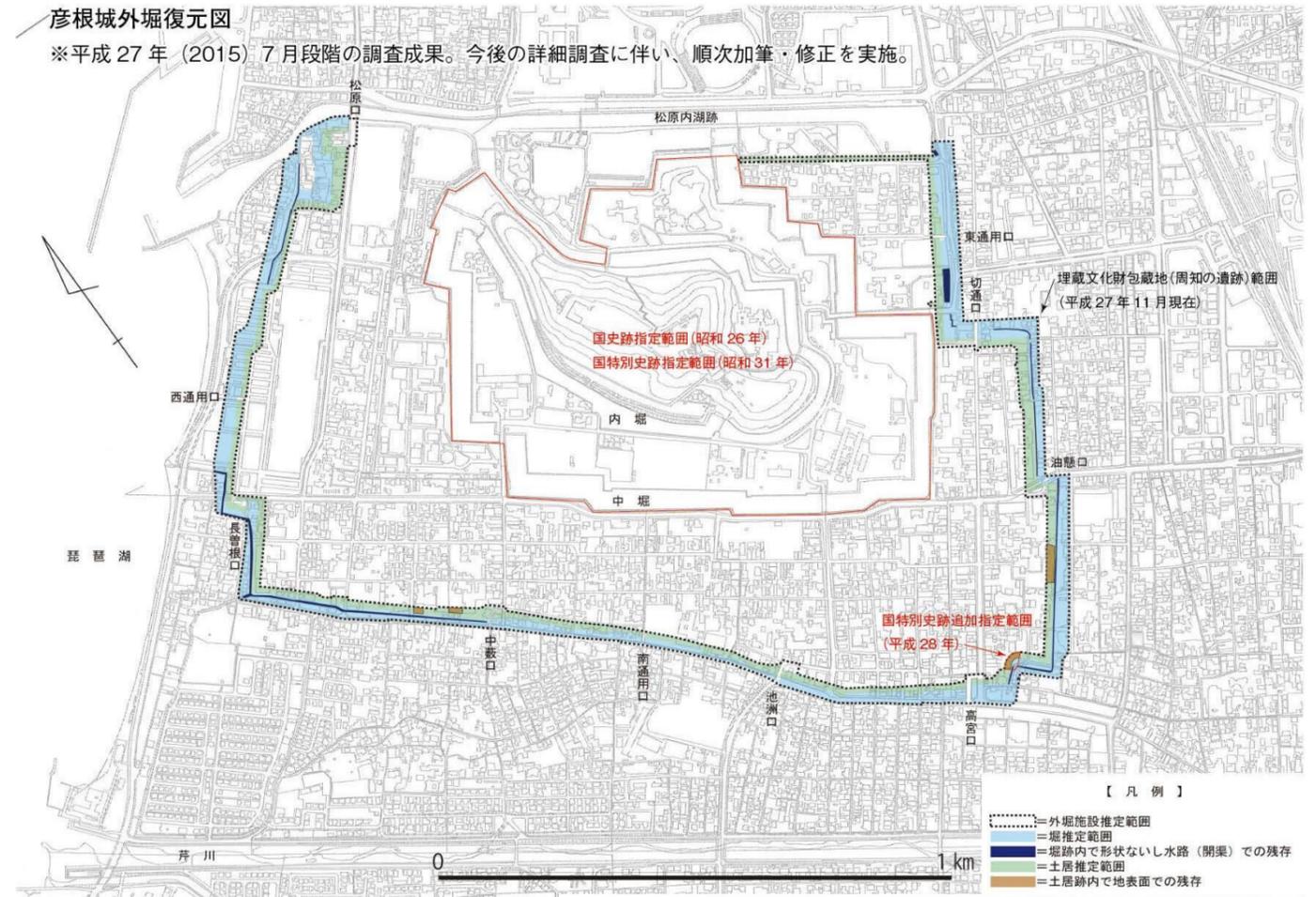
下高大輔 2017「豊臣城郭石垣の変遷—城郭石垣変遷が示す豊臣政権—」『織豊城郭』第17号 織豊期城郭研究会

下高大輔 2017「井伊家居城の佐和山城と彦根城が示す豊臣政権」『織豊期研究』第19号 織豊期研究会

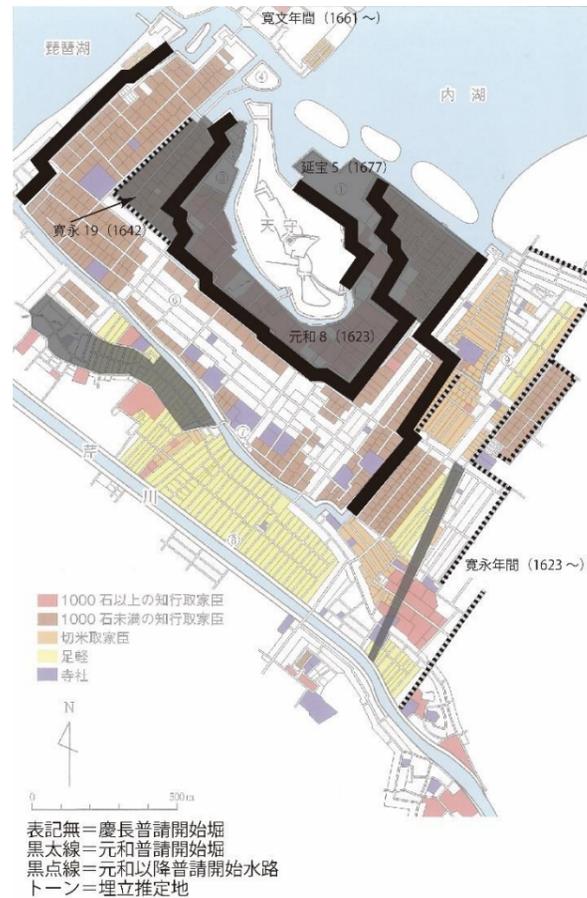
下高大輔 2018「倭城の石垣面に関する覚書—二種類の石垣が示す豊臣政権直轄普請—」『織豊城郭』第18号 織豊期城郭研究会

彦根城外堀復元図

※平成27年(2015)7月段階の調査成果。今後の詳細調査に伴い、順次加筆・修正を実施。



彦根城の普請順



表記無=慶長普請開始堀
 黒太線=元和普請開始堀
 黒点線=元和以降普請開始水路
 トーン=埋立推定地

彦根築城から特別史跡・国宝指定まで

西暦和暦	月	築城から文化財指定までの主な出来事
1600	慶長5 9	関ヶ原合戦。合戦後の論功行賞により石田三成の佐和山城と旧領を井伊直政が拝領。直政、徳川家康より居城を佐和山城より磯山に移すように命じられる
1602	慶長7 2	直政、佐和山城にて死去。長男の直継が家督を継ぐ。
1603	慶長8	城地選定。佐和山・磯山・彦根山の候補地から彦根山と決定。
1604	慶長9 7	彦根山を中心に普請開始。善利(芹)川の付替普請、本町中心の城下町建設も着手。築城にあたり古城の居宅を移す。鐘の丸完成。井伊直継、佐和山城より移る。
1606	慶長11 6	大津城天守から持ち込まれた天守部材が組みあがる。この頃、本丸御広間が完成し、直継が鐘の丸より移る。
1614	慶長19 11	大坂冬の陣開戦。この頃、「内堀」より内側と一部の足軽組屋敷などを含めた城下町(初期城下町)が完成。
	12	徳川方と豊臣方で講和が成立。
	2	彦根藩主が井伊直継から直孝(直政次男)となる。
1615	慶長20 4	大坂夏の陣開戦。
	5	大坂夏の陣終結。
元和1	7	築城普請の再開。
1622	元和8	元和普請。御櫓・黒鉄門などの御門・高石垣・表御殿ができ、その後に「中土手中堀」が完成。「外堀」もこの頃完成。以後、城下町の改造・拡張が行われるとともに、各施設の修築も実施。
1871	明治4 7	明治新政府による廃藩置県実施。彦根藩解体の上、井伊家が東京に移住。この頃、外堀の高宮口御門付近が埋め立てられ、土橋町が成立。
1872	明治5	彦根城が陸軍省の所管となる。
1878	明治11 9	陸軍省が彦根城の解体を決定。
	10	明治天皇北陸巡幸中、参議大隈重信の進言により、彦根城解体中止を御内達する。
1891	明治24	陸軍省より宮内省の所管に転じ、彦根御料地となる。
	10	拝借方申請した井伊直憲に保管委託になる。
1894	明治27 5	私下方申請した井伊直憲に拝借中のもの一切が下賜され、同氏の所有となる。
1934	昭和9	
1935	昭和10	土橋町から池洲町を経て、中敷町までの外堀の一部が埋め立てられ、昭和新道が開通。
1942	昭和17 6	彦根市長松山藤太郎が井伊直忠に彦根城の下付願いを提出する。
1944	昭和19 2	彦根城の土地・建物が井伊家から彦根市へ寄付される。
1945	昭和20 8	アジア・太平洋戦争終結。この頃、尾末町をはじめとする外堀が道路拡張により埋め立てられる。
1949	昭和24 5	中敷口~長曾根口、油懸口~高宮口の大半をマリア対策で5年かけて埋立。
1950	昭和25	文化財保護法制定。
1951	昭和26 6	彦根城の中堀より内側のエリアに埋木舎の敷地を加えたエリアが国史跡となる。
	9	国史跡内の天守をはじめとする城郭建築物が国指定重要文化財となる。
1952	昭和27 3	天守 附櫓及び多聞櫓が国指定重要文化財から国宝へと格上げされる。
1956	昭和31 7	国史跡指定から国特別史跡指定へと格上げされる。
1963	昭和38 7	馬屋が国指定重要文化財となる。
2015	平成27 11	彦根城外堀跡全体が周知の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)となる。
2016	平成28 3	中央町・錦町の外堀跡(堀・土塁)の一部が特別史跡彦根城跡に追加指定される。

